

## 調査の概要

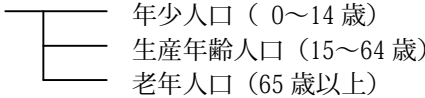
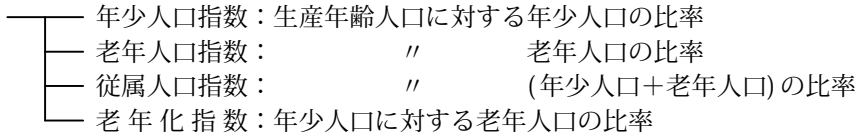
- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：毎年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、平成22年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

### 4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横浜・川崎	横浜市、川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

## 用語の解説

- 1 年齢：調査日前日による満年齢
- 2 年齢（3区分）別人口 
- 3 年齢構造指数 
- 4 性比：女性100人に対する男性の数
- 5 平均年齢の算出方法  
$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$
  
(小数点第3位以下切り捨て)

## 利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和51年1月1日現在調査（昭和50年10月1日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、本報告書に使用しているそれ以前の数値は、大正9年から総務省が5年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成22年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成23年～27年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、総務省統計局発行「人口推計月報」による平成27年1月1日現在推計人口（確定値）を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。
- 6 総人口には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

## 調査結果の概要

### 1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成 27 年 1 月 1 日現在の神奈川県内の総人口は、910 万 346 人(男性 454 万 8416 人、女性 455 万 1930 人)です。【表 1、3、4 参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0~14 歳)116 万 16 人、生産年齢人口(15~64 歳)577 万 260 人、老年人口(65 歳以上) 211 万 7842 人となり、老年人口が年少人口を 95 万 7826 人上回っています。【図 1、表 1、11 参照】
- (3) 平成 26 年 1 月 1 日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は 1 万 6507 人増加しており、年少人口は 8034 人減少、生産年齢人口は 5 万 7243 人減少し、老年人口は 8 万 1784 人増加となっています。【図 2、表 1、6、11 参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は 0.1 ポイント低下し 12.8% (全国値 12.8%)、生産年齢人口は 0.7 ポイント低下し 63.8%(同 61.1%)、老年人口は 0.9 ポイント上昇し 23.4% (同 26.2%) となっており、全国値と比べると、生産年齢人口では 2.7 ポイント高く、老年人口では 2.8 ポイント低くなっています。【図 3、表 1、6 参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は 20.1、老年人口指数は 36.7 となっており、この 2 つの指数を合わせた従属人口指数は 56.8 で、これによると、1.8 人の現役で 1 人の年少者又は高齢者を支えていることになります。また、老年化指数は 182.6 で、年少者 1 人に対し高齢者 1.8 人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国値(年少人口指数 20.9、老年人口指数 42.8、従属人口指数 63.7、老年化指数 205.0) より低くなっています。【図 4、表 2 参照】

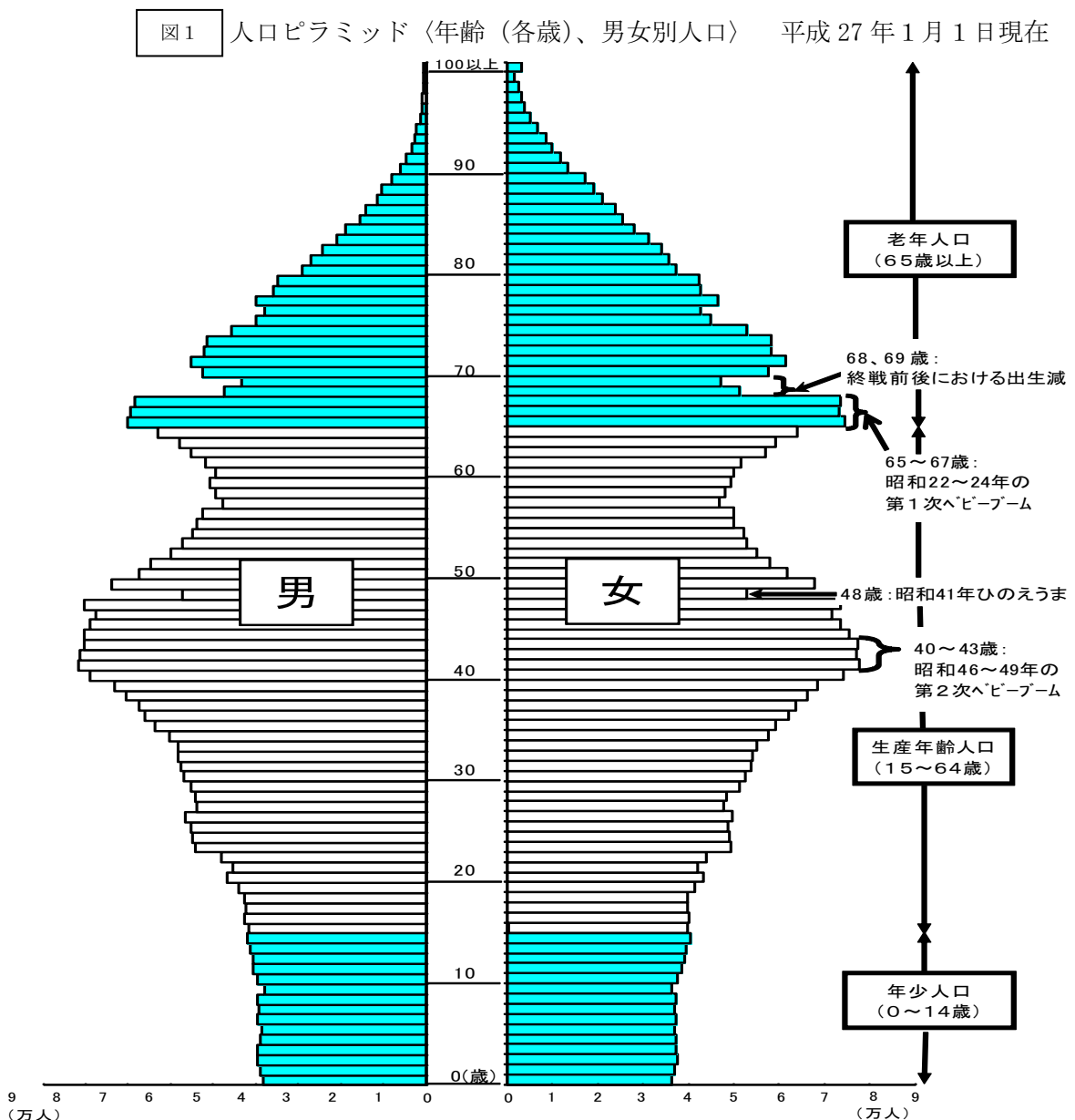


図2 年齢（3区分）別人口の推移

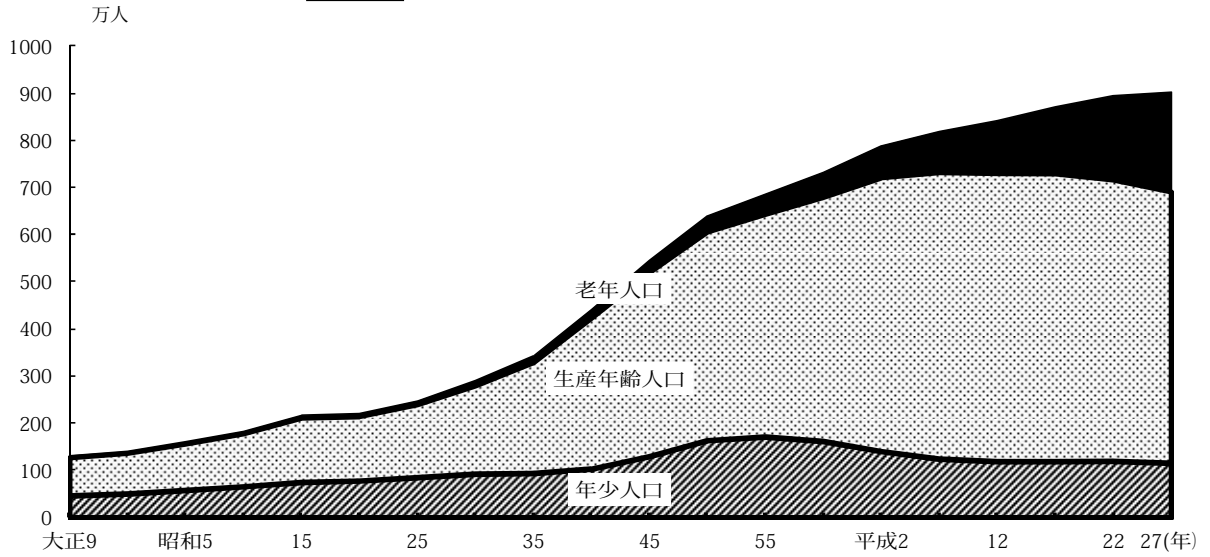
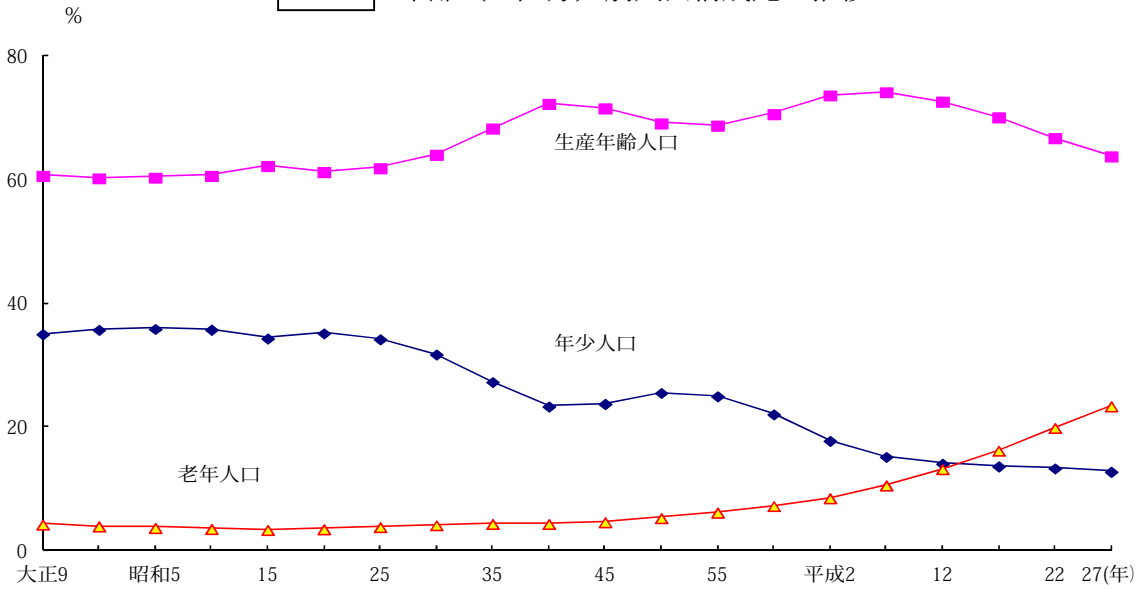
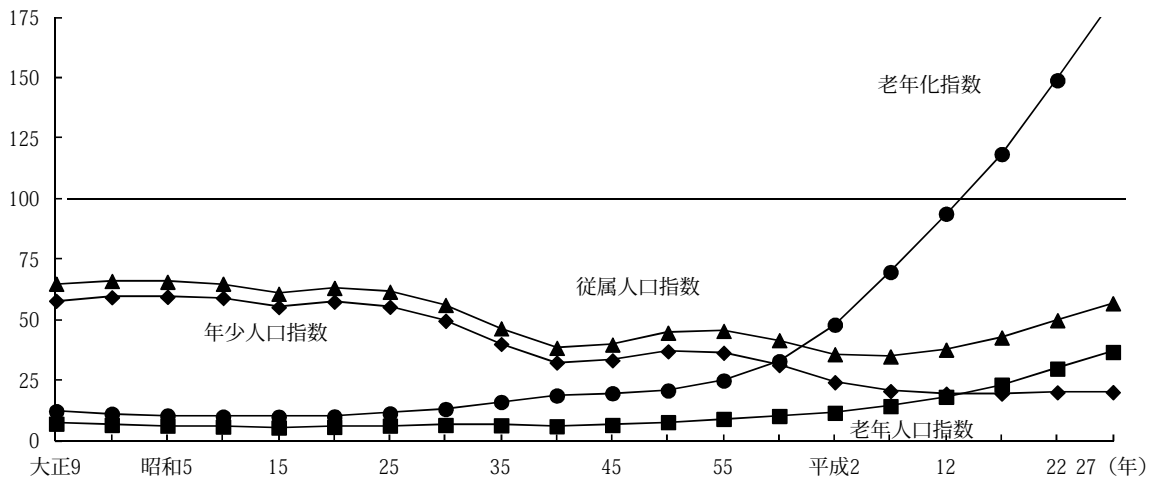


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

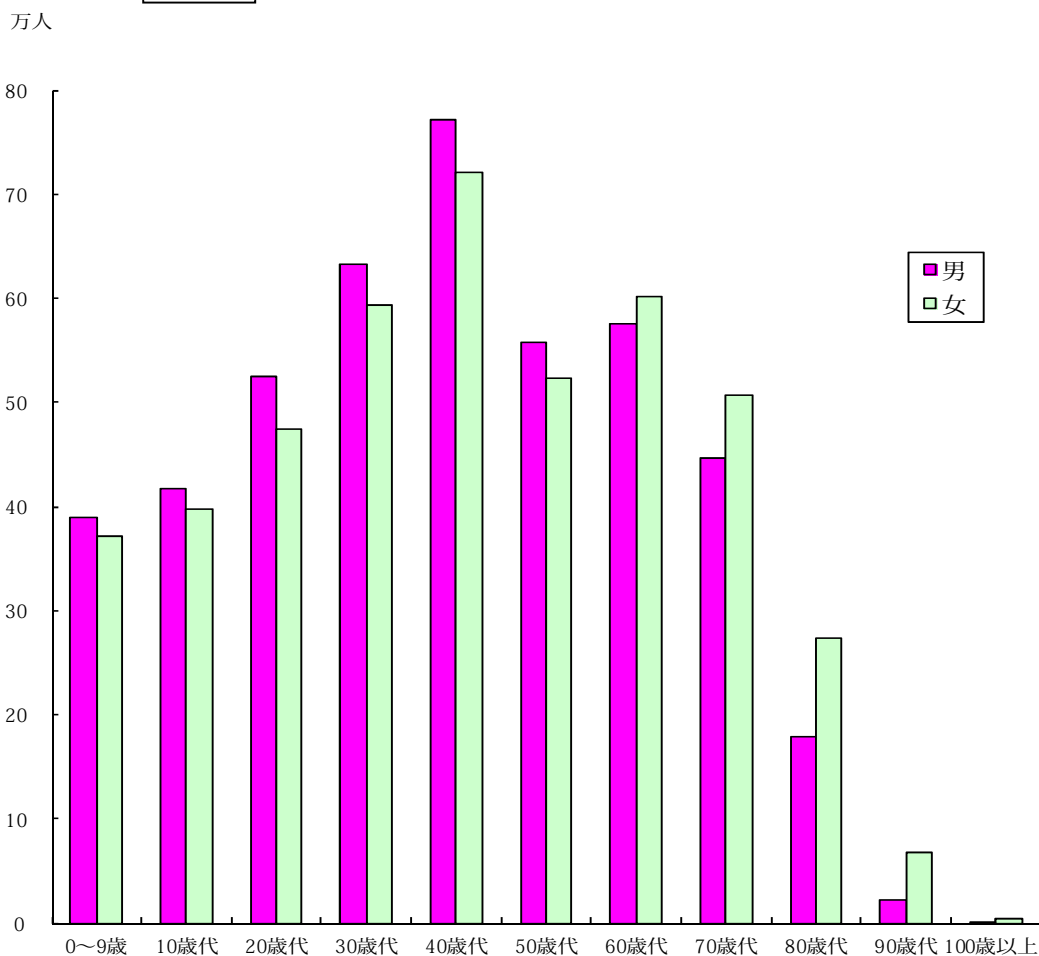
図4 年齢構造指数の推移



## 2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が149万1838人(人口構成比16.5%)と最も多く、次いで30歳代の122万5105人(同13.5%)、60歳代の117万7708人(同13.0%)の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より0歳代、10歳代、20歳代、30歳代、60歳代の人口は減少し、その他の階級は増加しています。【表3、15参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が77万1315人(男性に占める割合は17.1%)と最も多く、次いで30歳代の63万2233人(同14.0%)、60歳代の57万6143人(同12.8%)の順となっています。  
女性でも40歳代が72万523人(女性に占める割合は15.9%)と最も多く、次いで60歳代の60万1565人(同13.3%)、30歳代の59万2872人(同13.1%)の順となっています。【図5、表3参照】

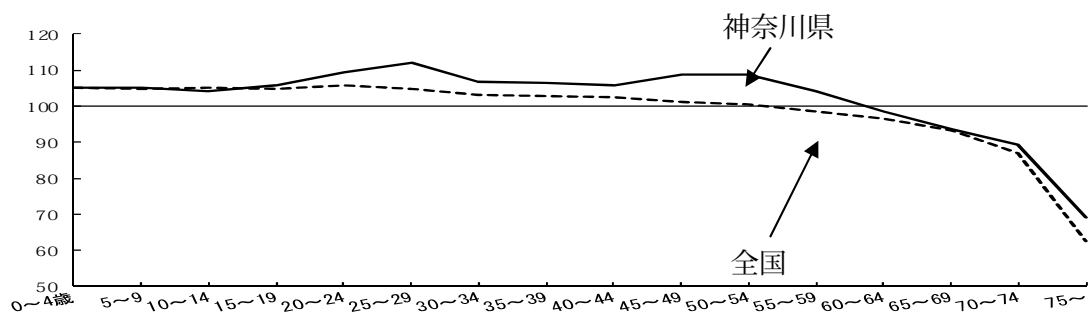
図5 年齢（10歳階級）別、男女別人口数



## 3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が454万8416人、女性が455万1930人で、女性が3514人多く、性比(女性100人に対する男性の数)は99.9で、前年調査に比べると0.2ポイント低下していますが、全国値(94.7)と比べると5.2ポイント上回っています。【表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、25～29歳が112.0と最も高く、続いて20～24歳が109.4となっています。  
また、これらの年齢階級の性比は、全国値より著しく高く、25～29歳は7.3ポイント(全国値104.7)、20～24歳は3.5ポイント(同105.9)、それぞれ全国値を上回っています。【図6、表4参照】

図6 年齢（5歳階級）別性比



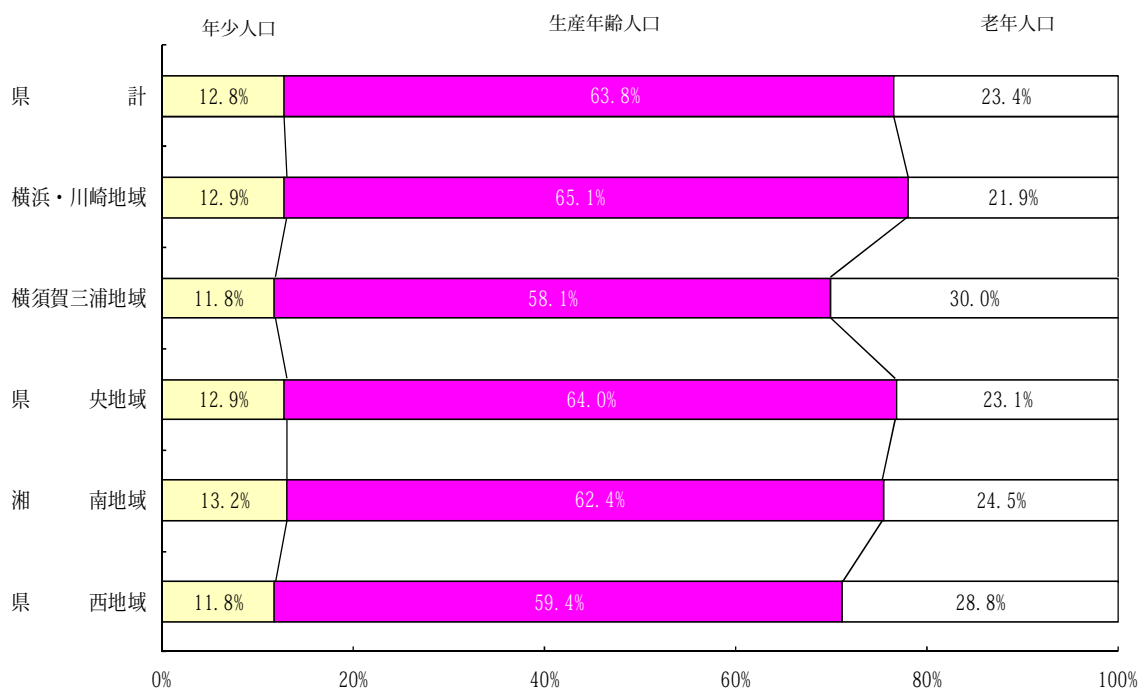
4 平均年齢

- (1) 平均年齢は 44.76 歳で、前年調査に比べ 0.31 歳高くなり、毎年、高齢化が進んでいます。  
【表 5 参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が 43.54 歳(前回調査に比べ 0.29 歳上昇)、女性が 45.97 歳(同 0.32 歳上昇)で、男女を比べると男性が 2.43 歳低くなっています。【表 5 参照】
- (3) 地域別平均年齢は、横須賀三浦地域の 48.12 歳が最も高く、次いで県西地域の 47.68 歳、湘南地域の 45.1 歳の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の 44.11 歳となっています。  
【表 7 参照】

5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 県内 5 地域（横浜・川崎、横須賀三浦、県央、湘南、県西）別の年齢（3 区分）別人口構成比は、年少人口では湘南地域が 13.2% と最も高くなっています。最も低いのは横須賀三浦地域及び県西地域の 11.8% となっています。【図 7、表 6 参照】
- (2) 生産年齢人口では、横浜・川崎地域が 65.1% と最も高く、県央地域が 64.0%、湘南地域が 62.4% の順となっています。一方、最も低いのは横須賀三浦地域の 58.1%、次いで県西地域の 59.4% となっています。【図 7、表 6 参照】
- (3) 老年人口では、横須賀三浦地域が 30.0% と最も高く、次いで県西地域の 28.8%、湘南地域の 24.5% の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の 21.9% となっています。  
【図 7、表 6 参照】

図7 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

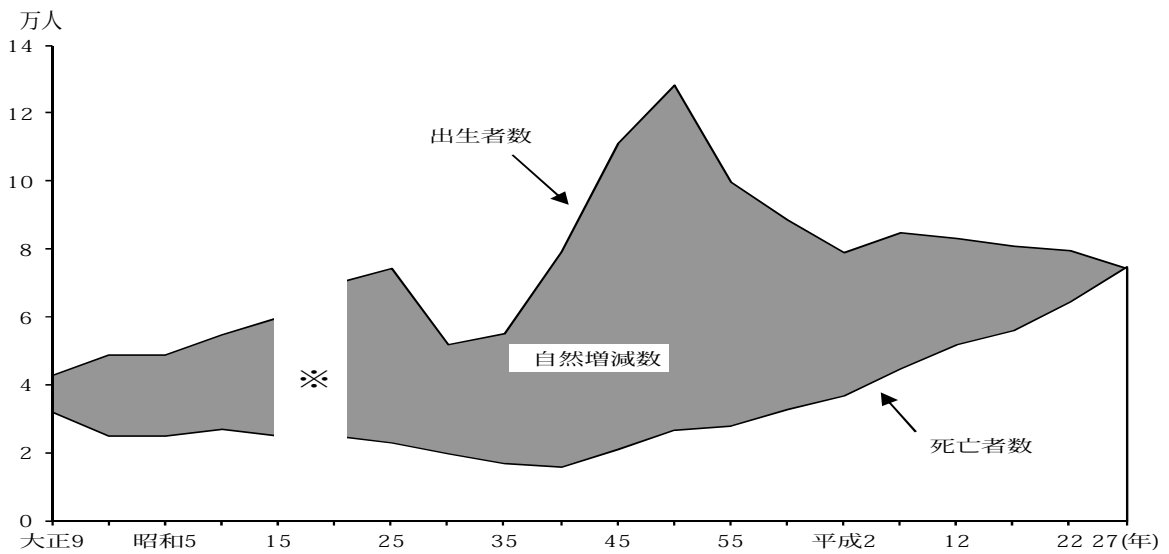


(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

## 6 年齢別異動人口

- (1) 平成 26 年中の人口増減は 1 万 6507 人増で、その内訳は自然増減が 286 人減、社会増減が 1 万 6793 人増となっています。【表 12 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者] (-286 人) は、出生者が 7 万 4458 人、死亡者が 7 万 4744 人となっています。【図 8、表 12 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者] (1 万 6793 人) は、転入者が 47 万 8909 人、転出者が 46 万 2116 人となっており、なかでも 20～24 歳の社会増減は 1 万 974 人増と最も大きく、続いて 15～19 歳が 6164 人増となっています。【表 12 参照】
- (4) 社会増減の 10 歳階級別人口のうち、0 歳代及び 30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代の年齢階級で転出超過となり、その他の年齢階級で転入超過となっています。  
また、20 歳代が転入者転出者とも最も多く、転入者は 15 万 6908 人で転入者総数の 32.8%、転出者は 14 万 3232 人で転出者総数の 31.0%を占めています。【図 9、表 13 参照】

図 8 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※昭和 14 年から昭和 20 年までの出生・死亡者数はデータ又は集計がありません。

図 9 年齢(10歳階級)別転入・転出者数

